

「自己点検・評価書」・「基礎資料」正誤表

大学名：東京理科大学薬学部

■自己点検・評価書

	頁	行	誤	正
1	前書3	下5	という基本理念に基づき、	という基本理念に基づいて、
2	前書3	下3～下1	本学の伝統である「 <u>実力主義</u> 」の教育方針に則り、 <u>2つの学科の緊密な連携のもと、医療薬学と創薬科学を含む総合ライフサイエンスとしての薬学を担う人材を育成するための教育を</u> 実践する。	<u>2つの学科の緊密な連携のもと、本学の伝統である実力主義の教育方針に基づき、医療薬学と創薬科学を含む総合ライフサイエンスとしての薬学を担う人材育成を図る教育を</u> 実践する。
3	前書4	1～3	最先端の薬学研究にさまざまなアプローチから取り組む体制を構築し、 <u>これを支える4つの学問領域（創薬科学、生命薬学、環境・衛生薬学、医療薬学）を設定した上で、</u>	最先端の薬学研究にさまざまなアプローチから取り組む体制を構築し、 <u>かつこれを支える4つの学問領域（創薬科学、生命薬学、環境・衛生薬学、医療薬学）を設定の上で、</u>
4	前書4	5～7	「基礎科目」では、 <u>上記の4つの学問領域に共通した基礎薬学に関する知識と技能を修得するための授業科目を配置した上、さらに「専門科目」との接続性にも配慮した教育を展開する。</u>	「基礎科目」では、 <u>医薬・創薬に共通する薬学に必要な学問と、薬学を支える基礎的な技能を修得するための授業科目を効果的に配置し、「専門科目」との接続を図る。</u>
5	前書4	8～12	「専門科目」では、 <u>講義科目に加えて、多くの実習・演習等の関連科目を効果的に組み合わせることにより、薬学の各専門分野に関する知識と技能を深化させるとともに、総合的な学問としての薬学を探究していくための態度を身に付けることを通じて、問題解決能力とヒューマニティに優れた人材を育成することにより、本学教育理念の実現を図る。</u>	「専門科目」では、 <u>講義の他に、多くの実験、実習、演習等の授業科目を重点的かつ効果的に組み合わせることで、それぞれの学科の教育目標を実現するために専門分野を深化させ、他の授業科目との関連や学問探究の方法を学び、かつ人間性の陶冶や問題発見・解決能力を育成し、本学部の教育理念の実現を図る。</u>
6	前書4	13～17	「一般科目」では、 <u>自然科学・人類科学・社会科学の各分野を広く俯瞰した上で、人命を最大限に尊重することのできるヒューマニティを育むことを目的とした人間科学分野の教育を展開するとともに、グローバルに活躍しうる人材となるための語学力・コミュニケーション能力を身に付けることを目的とした教育を実施する。</u>	「一般科目」では、 <u>「医療薬学と創薬科学を含む総合ライフサイエンスとしての薬学を担う人材育成」という目的を達するために、専門分野の修得のみでなく、人命の尊重とヒューマニティの育成や文明に対する理解という幅広い教養教育を通して、薬学に携わる者の基礎的な学問が修得できるよう、授業科目を展開する。</u>
7	前書4	18～20	薬学という専門分野を超えて、広く関心のある知識を修得できるよう、他学部・他学科において開講されている科目を履修しうる制度を設けることにより、 <u>幅広い視野と新しい分野への挑戦意欲をもった人材の育成を図る。</u>	自身の専門分野を超えて幅広く関心のある科目を履修できるよう、他学部・他学科間の履修や大学院科目の先行履修を可能とし、 <u>学生の学習意欲の向上と多様な学習ニーズに応えることで、より幅広い視野と意欲を持った人材の育成を図る。</u>

8	前書5	7~10	<u>薬剤師の職能の基盤となる専門的な知識と技能に加えて、それを実践する資格をもつ者としてふさわしい態度を習得することを通じて、ヒューマニティと研究心を兼ね備えた医療人を育成するという教育目標を実現するための教育課程を編成する。</u>	<u>医薬品の作用機序、安定性等の薬剤師の職能の基盤となる専門的知識及び関連する技能、態度を習得し、ヒューマニティと高度化する医療に適切に対応できる研究心を兼ね備えた薬剤師の育成という教育目標を実現するための教育課程を編成する。</u>
9	前書5	11~12	<u>医療にまつわる様々な事故を防ぐための方策を立案し実行しうる力量をもつ人材を育成するための教育を実践する。</u>	<u>広く国民の健康と福祉を守り、多様化する医療現場で活躍し、社会的な期待に応えることのできる「ヒューマニティと研究心にあふれる高度な薬剤師の育成」を図る教育を実践する。</u>
10	前書5	13~15	<u>多様化する医療現場における課題を迅速に把握するとともに、これを解決するための新たな方法論に関する旺盛な探究心と優れた研究遂行能力を養うための充実したカリキュラムを展開する。</u>	<u>単に薬剤師として必要な技術や医療現場で種々の問題を即座に解決できる能力を習得するだけでなく、生命を尊び、患者の痛みを知り適切に対処できる人間性を養い、未然に医療事故を防ぐための方策を身に付けるために、旺盛な研究心と自らも研究を行える能力を育成する、充実したカリキュラムを展開する。</u>
11	前書5	16~19	<u>「基礎科目」では、4つの学問領域（創薬科学、生命薬学、環境・衛生薬学、医療薬学）のいずれにも共通した基礎薬学に関する知識と技能を修得するための授業科目を配置した上、さらに「専門科目」との接続性にも配慮した教育を展開する。</u>	<u>「基礎科目」では、医薬・創薬に共通する薬学に必要な学問と、薬学を支える基礎的な技能を修得するための授業科目を効果的に配置し、「専門科目」との接続を図る。</u>
12	前書5	20~24	<u>「専門科目」では、講義科目に加えて、多くの演習・実習・実務実習等の関連科目を効果的に組み合わせることにより、上記の4つの学問領域に関する知識と技能を深化させるとともに、総合的な学問としての薬学を探究していくための態度を身に付けることを通じて、問題解決能力と優れた人間性を兼ね備えた人材を育成することにより、本学教育理念の実現を図る。</u>	<u>「専門科目」では、講義の他に、多くの実験、実習、演習、実務実習等の授業科目を重点的かつ効果的に組み合わせることで、教育目標を実現するために専門分野を深化させ、他の授業科目との関連や学問探求の方法を学び、かつ人間性の陶冶や問題発見・解決能力の育成を図る。</u>
13	前書5	25~29	<u>「一般科目」では、自然科学・人類科学・社会科学の各分野を広く俯瞰した上で、人命を最大限に尊重することのできるヒューマニティを育むことを目的とした人間科学分野の教育を展開するとともに、グローバルに活躍しうる人材となるための語学力・コミュニケーション能力を身に付けることを目的とした教育を実施する。</u>	<u>「一般科目」では、「ヒューマニティと研究心にあふれる高度な薬剤師の育成」という目的を達するために、専門分野の修得のみでなく、人命の尊重とヒューマニティの育成や文明に対する理解という幅広い教養教育を通して、医療に携わる者の基礎的な学問が修得できるよう、授業科目を展開する。</u>

14	前書5	30~32	薬学という専門分野を超えて、広く関心のある知識を修得できるよう、他学部・他学科において開講されている科目を履修しうる制度を設けることにより、幅広い視野と新しい分野への挑戦意欲をもった人材の育成を図る。	自身の専門分野を超えて幅広く関心のある科目を履修できるよう、他学部・他学科間の履修を可能とし、学生の学習意欲の向上と多様な学習ニーズに応えることで、より幅広い視野と意欲を持った人材の育成を図る。
15	前書6	7~10	生命科学に関する高度な専門知識と技術を基盤として、医薬品の創製を実現しうる優れた研究者・技術者の育成を通じて薬学の発展に寄与するとともに、人類の健康と福祉に貢献するという教育目標を実現するための教育課程を編成する。	生命科学を基盤とした専門知識と技術を備えた、医薬分子の創製に携わる優れた研究者を育成し、薬学の発展に寄与するとともに、人類の健康と福祉に貢献するという教育目標を実現するための教育課程を編成する。
16	前書6	11~12	様々な疾病に対して高い有効性を示す医薬品の創製、体内動態、作用機構に関する講義・演習・実習を幅広く実施するとともに、これらの研究を早期から展開することを通じて、総合ライフサイエンスとしての薬学を追究することにより、先端医療を支える高度な知識と技能を備えた創薬研究者・技術者を育成するための教育を実践する。	わが国の薬学の全面的な発展のためには、疾病に対して有効な医薬品を創製するとともに、医薬品の生体内動態、作用機構に関する研究も必要であり、また社会的な要望も高い、クスリの科学に関する教育を行い、「先端医療を支える高度な知識と技能を備えた創薬研究者の育成」を図る教育を実践する。
17	前書6	13~15	大学院薬学研究科における研究活動との関連性を重視しつつ、4つの学問領域（創薬科学、生命薬学、環境・衛生薬学、医療薬学）に関する専門知識の修得と問題解決能力の涵養を図ることにより、優れた研究者・技術者を育成するためのカリキュラムを展開する。	優れた研究者の育成のために、全ての学生が大学院修士課程に進学することを念頭におき、生命科学、創薬科学に関する高度な研究の早期着手や大学院科目の先行履修などより、高度な研究者を養成できるカリキュラムを展開する。
18	前書6	16~19	「基礎科目」では、上記の4つの学問領域のいずれにも共通した基礎薬学に関する知識と技能を修得するための授業科目を配置した上、さらに「専門科目」との接続性にも配慮した教育を展開する。	「基礎科目」では、医薬・創薬に共通する薬学に必要な学問と、薬学を支える基礎的な技能を修得するための授業科目を効果的に配置し、「専門科目」との接続を図る。
19	前書7	1~5	「専門科目」では、講義科目に加えて、多くの演習・実習等の関連科目を効果的に組み合わせることにより、上記の4つの学問領域に関する知識と技能を深化させるとともに、総合的な学問としての薬学を探究していくための態度を身に付けることを通じて、問題解決能力と優れたヒューマニティを兼ね備えた人材を育成することにより、本学教育理念の実現を図る。	「専門科目」では、講義の他に、多くの実験、実習、演習等の授業科目を重点的かつ効果的に組み合わせることで、教育目標を実現するために専門分野を深化させ、他の授業科目との関連や学問探求の方法を学び、かつ人間性の陶冶や問題発見・解決能力の育成を図る。

20	前書7	6~10	「一般科目」では、 <u>自然科学・人文科学・社会科学の各分野を広く俯瞰した上で、人命を最大限に尊重することのできるヒューマニティを育むことを目的とした人間科学分野の教育を展開するとともに、グローバルに活躍しうる人材となるための語学力・コミュニケーション能力を身に付けることを目的とした教育を実施する。</u>	「一般科目」では、 <u>「先端医療を支える高度な知識と技能を備えた創薬研究者の育成」という目的を達するために、専門分野の修得のみでなく、人命の尊重とヒューマニティの育成や文明に対する理解という幅広い教養教育を通して、薬学研究に携わる者の基礎的な学問が修得できるよう、授業科目を展開する。</u>
21	前書7	11~13	薬学という専門分野を超えて、広く <u>関心のある知識を修得できるよう、他学部・他学科において開講されている科目を履修しうる制度を設けることにより、幅広い視野と新しい分野への挑戦意欲をもった人材の育成を図る。</u>	自身の専門分野を超えて幅広く <u>関心のある科目を履修できるよう、他学部・他学科間の履修を可能とし、学生の学習意欲の向上と多様な学習ニーズに応えることで、より幅広い視野と意欲を持った人材の育成を図る。</u>
22	11	19~20	<b>(根拠資料:77. 「コミュニケーション入門」第10回授業資料)</b>	<b>(根拠資料:77. 「コミュニケーション論」第9回授業資料)</b>
23	13	下4~下3	4年次に配属される「薬学総合演習」における各研究室ゼミでの定期的な研究報告、	4年次に配属される「薬学総合研究」における各研究室ゼミでの定期的な研究報告、
24	26	下13~下12	4年次前期では「衛生化学実習」と	4年次前期では「衛生薬学実習」と、
25	30	下11	フィジカルアセスメントやリスクマネジメントも	フィジカルアセスメントやリスクマネジメントも
26	32	下2~下1	2014(平成26)年度の医療薬学実習は9月24日に開始し、11月13日に終了し96コマを実施した。また、事前学習としての位置付けで「調剤学1、2」を計30コマ行っている。	2014(平成26)年度の医療薬学実習は9月24日に開始し、11月13日に終了し96コマを実施した。また、事前学習としての位置付けで「調剤学1」15コマ、「調剤学2」4コマ、「処方解析概論」1コマ、「患者情報」1コマ、「コミュニケーション論」5コマで、計26コマを行っている。
27	47~48	下1~次ページ5行目	学生はこの評価を参照しつつ卒業論文(薬学総合研究論文)を作成し、同年11月27日(木)までに提出した。これらの論文は、全員の論文を合わせて製本し保存している。 <b>(観点 6-1-1-2、4)</b> 薬学総合研究論文(卒業論文)は、予め配付した作成上の注意事項に基づき、各自A4版4頁に【背景・目的】、【方法】、【結果】、および【考察】、必要に応じて【引用文献】および【学会発表】をまとめさせている。	学生はこの評価を参照しつつ卒業論文(薬学総合研究論文要旨)を作成し、同年11月27日(木)までに提出した。これらの論文要旨は、全員の論文要旨を合わせて製本し保存している。 <b>(観点 6-1-1-2、4)</b> 薬学総合研究論文要旨(卒業論文)は、予め配付した作成上の注意事項に基づき、各自A4版4頁に【背景・目的】、【方法】、【結果】、および【考察】、必要に応じて【引用文献】および【学会発表】をまとめさせている。

28	58	下9	個々の科目の成績評価は、各担当教員に委ねられており、	個々の科目の成績評価は、各担当教員に委ねられているが、一部の総合的な科目については担当教員で構成される学部内委員会において更に厳格に取り扱われ、
----	----	----	----------------------------	--

※行の欄は、見出し等も含め、文字のある行をカウントし記して下さい。

※正誤の該当箇所が分かるよう、アンダーラインを引いてください。

■基礎資料

	資料番号	頁	箇所	誤	正
1	3-1	14	該当科目3年	薬効物理学	薬効物理化学
2	4	71	科目関連図/ヒューマニズム関連科目	薬効物理化学[YP必・YM選]	薬効物理化学[YP選・YM選必]